

単
元
名

～読んだ感想を「思いのとびら」で伝え合おう～

ごんぎつね

教科書出版社名（ 光村図書 ）

○ 小学校（ 4 ）年 教科等（ 国語 ）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

・文章を読んで、考えたことを発表し合い、互いに考えの共通点と相違点に着目して話し合うことにより、一人ひとりの感じ方の違いに気づくことができる力をつけたい。また、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読み、感想や考えを持ち、それらを「思いのとびら」としてショーウィンドウ形式でまとめることができる力をつけたい。

○ 学校図書館活用のポイント

・今回の授業では、ごんぎつねと似た内容の図書を活用・紹介する。補助教材として扱うのは「泣いた赤鬼」、「おこんじょうり」、「おにたのぼうし」の3冊である。「周囲に理解されない主人公の境遇」「主人公と他の人物の関係が密接である」「主人公の伝えなかった思いが相手に届いていない」という3観点が、ごんぎつねと類似していることから、この3冊を選んだ。3冊を紹介し、ごんぎつねの学習をしながら並行読書として、活用をめざす。

○ 学習の展開（全14時間）

第1次	<ul style="list-style-type: none">・単元のめあてを知り学習を見通す。・「ごんぎつね」を読み、初発の感想を書く。・補助教材を紹介する。・学習計画をたてる。
第2次	<ul style="list-style-type: none">・「1」の場面の様子に着目して、想像を広げながら読む。物語の設定やごんの性格、置かれている状況などを確認する。ごんの行動や気持ちについて考える。・「思いのとびら」の「ごんの紹介コーナー」を書く。・「1」と「2」の場面の様子に着目して、ごんと兵十の関係をとらえる。「思いのとびら」の「兵十の紹介コーナー」を書く。・「2」「3」「4」「5」の場面の様子に着目して、ごんの行動と気持ちの変化を読み、変化がわかる文にしるしを付けて、簡単にまとめる。・「6」の場面の様子に着目して、ごんと兵十の気持ちを考える。・「6」の場面を、ごんの視点でリライトする。
第3次	<ul style="list-style-type: none">・「心に響いた一文」を300字程度に書きまとめる。書いたものを推敲する。・書いたものをもう一度推敲し、「心に響いた一文」を300字程度で清書す

	る。 ・友だちが書いた「思いのとびら」を読み合い、よかったところや感じたことを伝え合う。
--	---

※「1」～「6」は教科書の場面分けである。

【取組みを終えて】

○ 学校図書館を活用した学習における成果と課題

① 成果	・今回は授業の最終目標である、単元を通してつきたい力を具体化した成果物の作成に重きを置いた。ごんぎつねやその他補助教材を活用し、主人公の思いや隠された心情を想像し、それらを「思いのとびら」としてショーウィンドウ形式のシートを作成することができた。
② 課題	・友だちと交流し、様々な文に触れることで、書き方の参考にできたが、心情描写や情景描写など、書かれていない部分を想像するのは、まだ難しい様子であった。また、文章を書くことに対して難しさを感じる児童が数名いた。
③ 児童の感想・ふりかえり	・学習計画をみんなで立ててみることで、今後の学習や今日学ぶことがわかったので、安心して学習することができた。 ・「思いのとびら」を作るのは初めてだったけど、みんなから色々な意見や感想を付箋に書いてもらえて嬉しかった。 ・友だちが自分と同じところの感想を書いていたけど、考え方や表現がいろいろ違っていたので、こんな書き方もあると思った。

○ 学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

<p>・本校では学校図書館活用の授業に関して、様々な学習形態を研究している途中である。今回の授業においては、①単元を通してつきたい力を明確にした学習計画の作成 ②学校図書館を活用した並行読書、その他教材を活用した授業作成 ③単元を通してつきたい力を具体化した成果物の作成の三観点に重きを置いて、学習を進めた。補助教材については、各教室に数冊展示する必要もあり、学校司書と連携し公立図書館からの貸し出しも行った。</p> <p>・「思いのとびら」の作成に関しては、互いに考えの共通点と相違点に着目して話し合うことにより、一人ひとりの感じ方の違いに気づくことができる力を引き出せるように言葉をかけた。班での話し合いの時間を多くとり、様々な意見に触れられるよう配慮した。また、補助教材に出てくる主人公の気持ちを考えるために、情景描写や心情描写からわかる気持ちを考えることに重きを置いた。</p>
--

